

# 「保育の表現技術」科目におけるグループレッスンと 個人レッスンを併用したピアノレッスンの試み

## — 学生アンケートの分析を通して —

小栗祐子

(東海学院大学子ども発達学科)

### 要 約

本稿は、本学幼児教育学科1年生を対象とした「保育の表現技術」科目である「幼児音楽Ⅰ」におけるピアノレッスンについて考察するものである。昨年度までの授業をふり返り、担当教員間で授業改善の検討を重ねた結果、本年度より、ピアノのレッスンについては、個人レッスン形態のみではなくグループレッスンも併用する形で進めることとなった。これは、学生がピアノレッスンの時間をより主体的に捉えることができないか、また直面する練習の苦しみに留まるのではなく、その先の子どもの楽しい時間を考えられるレッスンにできないかなどの願いからである。

そこで、対話を通じたグループレッスンを筆者が担当し、他の2名の教員は昨年度までと同様の個人レッスンを担当するという形態で半期の授業を展開した。そして、本授業について学生に9つの内容を問うアンケート調査を行った。その結果、学生にとって個人レッスンとグループレッスンにはそれぞれの利点があり、これらを併用することでそれぞれに足りない部分も補えるという結果が明らかとなった。また、学生が意欲をもって授業や練習に取り組んだり、思考力を働かせて音と向き合ながら演奏技能を獲得していこうという姿が見られたことが大きな成果であった。

キーワード：ピアノ，グループレッスン，個人レッスン，

## I 研究の目的と方法

### 1. 問題の所在

現在、幼児教育の中核を担う教員の資質能力の向上が喫緊の課題とされ、そこでは、養成段階において、学生が自律的に学ぶ姿勢をもち自らの資質能力を向上させることの必要性が挙げられている<sup>1)</sup>。

しかしながら、保育者養成校で行われているピアノレッスンでは、先生と学生が1対1で、先生から弾き方を教わるという受動的ないわゆる技能伝授型の個人レッスンが未だに多く行われている現状があるのではないかと。本学においても旧態依然としてこの形態がとられており、学生の能動的な学びの姿とは大きく離れた姿を目の当たりにしているところである。

ピアノ指導に関わる教員へのアンケート<sup>2)</sup>においても、「有効に機能していない憂うべき現状」「学生は大きな負担と不安と緊張を感じている」「学習効果を上げるには時間が少なすぎ」「保育現場や採用試験での要求は高まるば

かり」などというような多くの悲観的な言葉が挙げられていることから、教員にとっても養成校におけるピアノ指導については課題が多いことがわかる。これは、時間的な制約や初心者学生の多さ、また学生のおかれた生活環境、そして、迫りくる就職試験の壁への対応など、多岐にわたる要素によるものであると読み取ることができる。

しかし、筆者が課題と感じるのは、保育者養成校でのピアノ指導は何のために行われるのかという根底の部分の捉え方についての認識である。

新海節<sup>3)</sup>は、保育者養成校におけるピアノ教育においては、「保育における音楽」と言う視点が根幹に据えられるべきだと言う。つまり「保育者として、子どもたちの感性に訴えかけることのできるピアノ演奏表現技術の習得」がねらいであり、練習曲などを多用したピアノ演奏の技術的側面を中心とした指導ではなく、学生自身の音楽性や音楽的感情表現を養うことのできる指導の必要性

を訴えている。つまり、学生自身が、音楽から何かを感じたり、演奏によって自分の感情やイメージを伝えたりというように、音楽から思考を働かせ常に音と向き合いながら演奏技能を獲得していくピアノ指導が求められるということであろう。

このように、学習者が自ら考え試行錯誤して表現を工夫して技能面の修得にまで至った経緯を明らかにした研究に中村愛<sup>4)</sup>のものがある。中村は、グループレッスンの形態をとっており、そのグループレッスンの定義を「複数人が言葉を通して相互に学び合い学習していること」としている。つまり、他者と意見の交流をすることで学習者の思考が働き、それが試してみたいという欲求を生み、考えながら演奏を繰り返すことで技能の修得も期待できるということであろう。

そこで、学生が自らの資質能力を向上させるべく、自らの演奏について何を表現したいのかという意識をもちそれを解決しようとする、あるいは自分の演奏によって聴き手に何かを伝えられた時の満足感などを感じることで、結果的に課題をもって自主的な練習への取り組みにつながるような時間となるよう期待すべく、本年度前期「幼児音楽Ⅰ」のピアノレッスン形態を一部改編し、これまでの個人レッスンだけではなくグループレッスンも取り入れる方法で試みることにした。なお、筆者は、本学短大部の音楽系の授業においてアシスタント要員としてピアノレッスンに関わっている。よって、今年度の開講を前に、短大部所属の授業担当教員ら<sup>5)</sup>と検討を重ね、このような個人レッスンとグループレッスンを併用するピアノレッスンを試行することとなった。

## 2. 研究の目的と方法

### (1) 研究の目的

本稿の目的は、「保育の表現技術」科目に位置する「幼児音楽Ⅰ」のピアノレッスンにおいて、本年度、新たに試みたグループレッスンと個人レッスンの併用授業のあり方について、学生のアンケート分析を通して考察することである。

### (2) 研究の方法

まず、「幼児音楽Ⅰ」の授業についての概要を示す。次に、履修学生へ行ったアンケート調査について、その結果を項目の順に示すとともに分析をして解釈を述べる。最後に、アンケート結果を総括して本授業のあり方について考察する。

## Ⅱ 「幼児音楽Ⅰ」の授業について

「幼児音楽Ⅰ」は、短期大学部幼児教育学科1年生を対象に前期に開講されており、保育士資格と幼稚園教諭免許取得には必修となっている。

### 1. 授業形態

この授業では、楽典の講義<sup>6)</sup>とピアノレッスンを並行して行う形態を採っており、学生は、AグループとBグループの2つのグループに分かれ、例えば、Aが前半の45分間に楽典の講義を受けている時、Bは別室に分かれてピアノレッスンを受け、後半45分は講義とレッスンの入れ替えという形態である。(表1)

表1 「幼児音楽Ⅰ」の授業形態

	前半45分	後半45分
Aグループ	楽典講義	ピアノレッスン
Bグループ	ピアノレッスン	楽典講義

### 2. ピアノレッスンについて

ピアノレッスンを担当する教員は、筆者(教員c)を含め3名である。グループレッスン形態を採るのは筆者(教員c)のみであり、教員aと教員bは個人レッスンの形態である。

Aグループを例にとると、Aグループ全11名の学生は3つのグループ(①②③各3~4名)に分けられ、5回のレッスンごとに教員をローテーションする形態となる(表2)。ここには、学生にとって、教員の指導やレッスン形態からの偏りをなくすという配慮がある。どの学生も3人すべての教員からの指導を受け、個人レッスンとグループレッスンの双方のレッスン形態を経験できることとなる。なお、レッスンにはピアノ曲と弾き歌い曲の両方を準備するようになっている。

表2 ピアノレッスンの形態

	第1 ~5回	第6 ~10回	第11 ~15回
教員a 〔個人レッスン〕	A-①	A-②	A-③
教員b 〔個人レッスン〕	A-③	A-①	A-②
教員c(筆者) 〔グループレッスン〕	A-②	A-③	A-①

#### (1) 個人レッスン

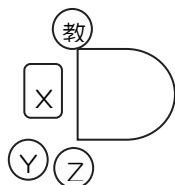
方法については各教員に一任されている。グランドピアノが一台あるレッスン室に、教員と学生一人がいるという空間である。一人およそ10分程度で入れ替わり、レ

レッスン室にいない学生は、練習室で練習をすることとなる。主に、学生が練習をしてきた曲を一度弾き、その時に気になったことを教員が学生に伝えて技能指導をし、学生は助言・指導を受けながら何度も弾いてみるという流れのようである。

(2) グループレッスン

レッスン室にはグランドピアノが一台あり、演奏者の手元や表情が見える位置に他の学生や教員が位置するという環境設定である。

45 分間はグループメンバー全員でレッスンを展開することとなる。



学生の演奏に対して、気づいたことや感想などを交流したり演奏者の思いを聴いて弾き方を工夫して試してみたりと、対話を通して音との試行錯誤となる。よって、一人あたりの時間は、必ずしも均等にはなにくく、時間の不平等さに対しては、次のレッスン時に調整する形で行った。

Ⅲ 質問紙調査について

1. 調査の方法

- 対象者 : 「幼児音楽Ⅰ」履修者 36 名 (幼児教育学科 1 年生)
- 実施日時 : 平成 29 年 8 月 3 日 (木) 第 2 時限目 (実技発表会<sup>7)</sup> の終了後 15 分程度)

2. 調査の内容

質問紙の内容は以下のようなものである。(別紙参照)

- (1) 個人レッスンとグループレッスンのそれぞれについて、以下の項目を自由記述で回答。  
 設問 1 : どんなことを考えて弾いていたか  
 設問 2 : よかった点  
 設問 3 : もっと深く学びたいこと
- (2) 個人レッスンとグループレッスンのそれぞれについて、以下の項目を 5 段階評価(5 : とてもそう思う 4 : そう思う 3 : どちらでもない 2 : あまりそう思わない 1 : 全く思わない)で回答。  
 設問 4 : レッスン時間中に考えながら聴いたり弾いたりした  
 設問 5 : 練習に対して意欲的に取り組めた  
 設問 6 : 弾き方を工夫してみようという意識があった  
 設問 7 : 新しい発見があった  
 設問 8 : 曲にあったイメージを考えながら弾いた  
 設問 9 : 楽しく取り組めた

3. 調査の分析方法

設問 1~3 質問の自由記述については、まず、その記述文章から設問に対する注目すべく語句を抜き出し、それらを筆者の解釈によって別の言い方に置き換え、さらにカテゴリーに分類した。カテゴリー項目については、一人の記述から複数個が挙げられることになるため、以下の図にある数については、学生数と一致するわけではない。また、設問 4~9 については、設問ごとに全回答者の平均値を出した。

Ⅳ 結果と考察

ここでは、質問紙での調査内容項目について、それぞれの結果を表で示すとともに、その解釈を述べていく。

1. 設問 1 : 「どんなことを考えながら弾いていたか」について

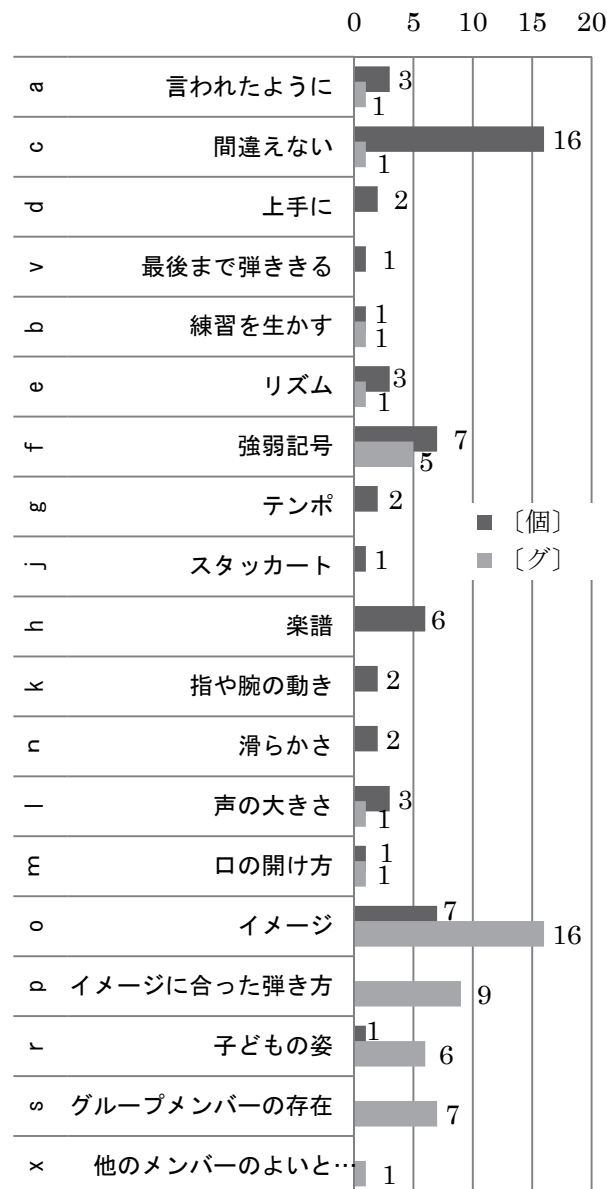


図 1 どんなことを考えて弾いていたか

## 「保育の表現技術」科目におけるグループレッスンと個人レッスンを併用したピアノレッスンの試み

個人レッスン（以下〔個〕と示す）でもっとも高い数値となったのは、「c 間違えない」であった。さらに、「f 強弱記号」「h 楽譜」「e リズム」に意識が向いた学生が多いことから、学生らは楽譜にある音をミスなく止まらずに弾くことや強弱記号やリズムを守ることへの意識が高いことがわかる。また、「k 指や腕の動き」「j スタッカート」などの技能面への意識の高さもうかがえる。

さらに、「c 間違えない」の記述の中には、「最後まで間違えない」「どうすれば間違えないように弾けるのか」「しっかり完璧に」「失敗したらどうしよう」などの文言が記述されていたことにも注目すべきであろう。演奏への偏った価値観やそれによって追い詰められるような不安感があるのだと読み取れる。

一方、「c 間違えない」について、グループレッスン（以下、〔グ〕と示す。）を見てみると、その数値は極めて低いことがわかる。同様に、〔個〕では多かった「h 楽譜」についても〔グ〕では数値に表れていない。

では、〔グ〕では何が高い数値を示したのか。それは、「o イメージ」であった。これらについての記述には、「このぼりが泳いでいるのをイメージしながら」「曲の雰囲気楽しい感じで」「曲想や風景をイメージして」「どんな場面かをイメージする」などがあり、学生は歌詞からの情景や音楽を聴いたときの感情に意識を向けていることがわかる。

さらにイメージに関連する「p イメージに合った弾き方」も高い数値であることに注目する。これは、ただイメージをもつだけではなく、そのイメージをピアノ演奏で伝えるためにどうしたらよいか、ということを考えながら弾いていたことを明らかにしている。そこには、楽曲だけでなく「r 子どもの姿」を想定したり、一緒に空間にいる「s グループのメンバーの存在」にも意識を向け、想定した状況において楽曲のイメージを伝えるためにはどのように演奏したらよいかという奏法の工夫などにも思考が働いていたことが読み取れる。

そして、設問1の結果を全体的にみると、〔個〕と〔グ〕の特性が大きく意識の差となって表れていることもわかる。図1のそれぞれのレッスンについての該当項目が示すように、それぞれのレッスンにおいて学生の意識はかなり違ったものに向いてた。

では、それはなぜなのであろうか。それは、レッスンを担当した教師の意識の差が現れたのではないか。つまり、〔グ〕を担当した筆者は、常に音楽から何を感じ何を

伝えたいのか、そのためにはどのように指や腕などの身体を使えばよいのかということ、学生間や筆者との対話の中から解決することを目指したのである。学生の記述を挙げるならば、「どのように弾いたらイメージにつながるか考えながら弾いた」というように、自分なりにもった思いの実現に向けての思考や試行が行われたことがわかる。

他方、〔個〕では、教員は学生の困っていることに耳を傾け、そのための技能的解決方法を細かく丁寧に提示し、そこで習得を目指すよう働きかけている。学生の記述には、「個人レッスンだとじっくり練習できるし、あせる気持ちもないので安心できた。」とあるように、できなくて不安のある状況においては〔個〕の手厚さが安心感につながっていることがわかる。

言うまでもないが、各教員の意識の違いによって発せられる言葉にも違いが生まれることとなり、学生の意識の向く方向も変わってくる。とはいえ、〔個〕と〔グ〕の意識の差が図1に表れてはいるが、〔個〕においても〔グ〕同様に「o イメージ」を挙げる学生も多くいた。それは、学生が双方のレッスンを経験するシステムとなっていたことに起因すると考えられる。

## 2. 設問2:「良かった点」について

ここでは、大変顕著な結果が見られた。それは、図2からもわかるように、〔個〕と〔グ〕のカテゴリー項目がほぼ重なることなく二分されたということである。

学生は、〔個〕のよさについて、「ア 教員の細かい助言・指導」を筆頭に、「オ 自分のペース」「ウ 教員への質問のしやすさ」などを口々に挙げていることがわかる。「細かいところまで指導してもらえる、教えてもらえる」「注意する点を多く言ってもらえる」「ここをもっとこうしたほうがいいよとアドバイスをもらえる」という文言が自由記述にあるように、教員と学生の対一という空間だからこそ、教員からのあふれる助言と技術指導が学生にとっては安心感となっていたようである。

さらに、自分のペースで時間を使えるからこそ、ピアノ経験の少ない学生にとっては譜読みから手取り足取り丁寧に教わることができ「キ 読譜力向上」につながったのだらう。また、十分な練習をしてきている学生にとっては、どんどん曲を仕上げて進められ「ク 多くの曲へ挑戦」できたことに満足感もあったと考えられる。これは、限られた時間の中で対話によって一曲を深く追求することとなる〔グ〕ではやや難しい点である。

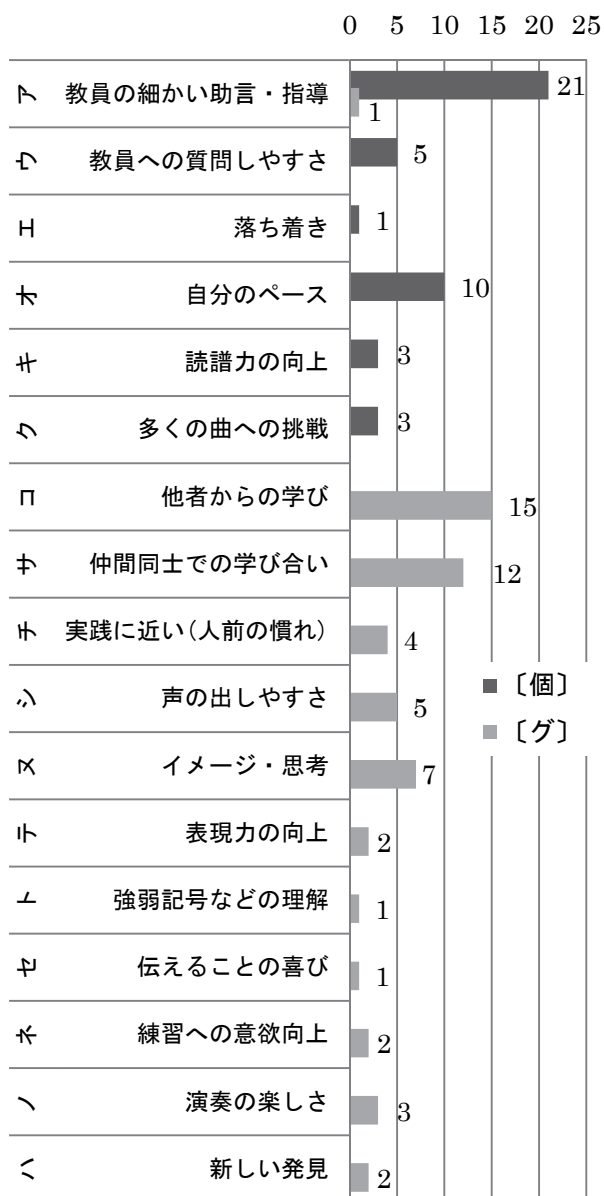


図2 よかった点

他方、[グ] を見ていると、「コ 他者からの学び」「サ 仲間同士での学び合い」を良さとして挙げる学生が多かった。教師だけでなく他学生がともにいる空間において、演奏から感じたことやアドバイス、賞賛のコメントなどを交流することで多様な意見から考えたり、自分の表現を価値づけたりすることができたのであろう。ただ感想を述べたりするだけのグループメンバーの存在であるならば、「コ 他者からの学び」となるであろう。しかし、「サ 仲間同士の学び合い」や「チ 実践に近い(人前の経験)」、「セ 伝えることの喜び」など他者の存在が良さとして挙がっているのは、演奏者を含めたグループメンバーや教師との間での意見のやり取りや音を介してのやり取りによって、「ヌ イメージ・思考」も発展し、演奏を試行錯誤する中で「ハ 新しい発見」があったり「テ

表現力の向上」を感じたりできたことも要因であると考ええる。演奏などの外に現れる部分だけでなく学生自身の心や意欲などの内面の部分も動がされていることに大きく注目すべきであろう。

これらのことから、学生にとっては、[個] と [グ] それぞれのレッスンに対して、それぞれの価値が見出されていたことが明らかとなった。双方のレッスン形態を取り入れることで、どちらか一方だけでは得られにくいであろうより幅広い視点での学修の機会が与えられ、それが学修成果につながっていくことも期待できるのではないかな。

### 3. 設問3:「もっと深く学びたいこと」について

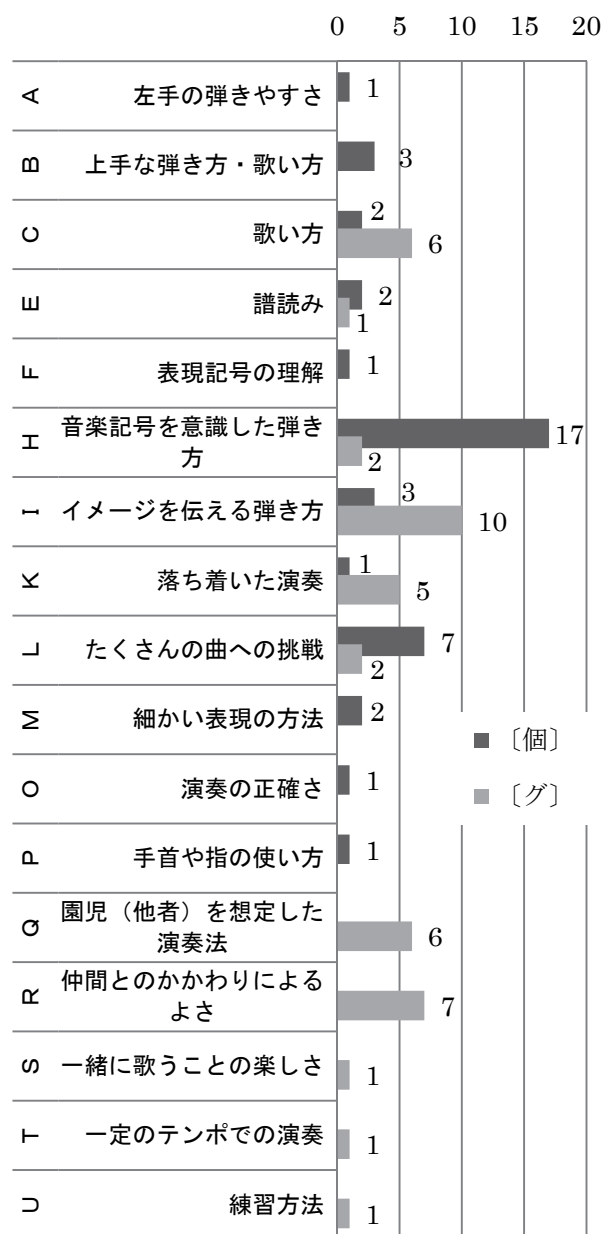


図3 もっと学びたいこと

## 「保育の表現技術」科目におけるグループレッスンと個人レッスンを併用したピアノレッスンの試み

この設問の設定に際し、筆者は、〔個〕〔グ〕のそれぞれに足りない点を明らかにできないかと考えていた。しかし、学生の記述を読んでも、学生は、〔個〕〔グ〕それぞれのレッスンで自分が価値として捉え、もっと時間をかけて取り組みたいと感じていることを回答したように感じられた。

〔個〕で最も高い数値を示した項目は、「H 音楽記号を意識した弾き方」であった。レッスン中にもおそらく教員から細かく指導されていたのであろう。学生の自由記述には「クレシェンドやデクレシェンド等の記号をどうしたら上手に使いこなすことができるのか知りたい」「クレシェンドやデクレシェンドをつけるところなども学びたい」「記号などに気をつけながらすらすらと弾けるようにしたい」などがあり、楽譜に書いてある「記号」に関心が向いていることは確かである。これは、ただ単に楽譜に書いてあるからその「音楽記号」を見逃してはいけないというのではなく、おそらく調査前に行われた実技発表会においも、強弱を意識した演奏を耳にしたからこそその記号が音で表現されたことに価値を見出したの記述であったと推察できる。そして、その技能を身につけるには、細かく丁寧に助言指導が得られる〔個〕が適所だと考えたのかもしれない。

「H 音楽記号を意識した弾き方」に関して学生の記述に注目してみると、〔個〕について「強弱・表現を意識したピアノ」と記述し、〔グ〕について「楽譜にのっている記号を理解して、一つ一つの曲をイメージして弾けるような」と書いていたり、「正確に弾くだけでなく、強弱や弾むように弾くところなど弾き方も学んでいきたい」(〔個])、「曲のイメージに合った弾き方を学びたい」(〔グ])と書いていたりするように、学生自身にとっては、〔個〕〔グ〕の両者において「H 音楽記号を意識した弾き方」と「I イメージを伝える弾き方」にはつながる部分があるという意識が生まれているように思われる。

「強弱や表情、弾き方でイメージがよく変わることがわかったのもっと深く知りたいです。」という自由記述もあるように、学生は、楽譜にある音や記号の再現という捉えではなく、イメージを伝えるためには強弱などの音楽記号について考え、そのためにどのように指や腕など身体を用いたらよいかという弾き方(技能)に意識が向いたと考えられる。

では、〔グ〕についてはどのような特徴が見られたのだろうか。それは、〔個〕では挙げられなかった「Q 園児(他者)を想定した演奏法」「R 仲間とのかかわりによ

るよさ」、そして場を意識しているからであろう「K 落ち着いた演奏」などへの欲求の高さである。これらつまり伝えたい相手への意識とも言える。それは伝えたい思いがあることから生まれるものであろう。

「c 歌い方」についても同様であろう。「どうしたらもっと声を出して歌えるか、みんなで歌うことの楽しさ」という学生の自由記述からは、伝えたい対象があるからこそもっと声が出したいという欲求が生まれるのであろうし、一緒に歌っていた他者の存在があったからこそ歌うことの楽しさを実感でき、更なる楽しさの発見に意欲が向いたのだと考えられる。

意欲の向上の点から見てみると、〔個〕について多くの学生が挙げた「L たくさんの曲への挑戦」についても当てはまるであろう。「もう少しレベルの高いものをやって、そのことの技術面を学びたかった」「色々なタイプの曲を弾いていきたい」などの自由記述は、自らの学びの実感からということも大きい。〔グ〕での他者からの学びや他者との学び合いの経験からももっと視野を広げることに意識が向いたとも考えられる。そして、自分のペースで進められるからこそ〔個〕においてもっと深く学ぶことを描いたのではないかと推察する。よって、いずれのレッスンにおいても、学生らは半期の自分の成長を振り返り、更なる学びに向け意欲をもつことができたと読み取ることができる。

### 4. 設問4～設問9について

図4に示す数字は、各項目に対する全回答の平均値となっている。なお、数値については小数点第3位を四捨五入している。

これら設問4～9の内容については、設問1～3と重なる部分や自由記述内容にも表れるだろうとの予測はあったが、ここでは個人の意識度を測る意図で設定した。

また、設問4・6・8では主に「思考・判断・表現」について、設問5・7・9では「関心・意欲」について問うものと見ることができる。この視点で見ると、上記の設問のいずれについても評価平均値が4.00を上回っていることは、おおむね学生にとって、今期のピアノレッスンが「関心・意欲」をもって取り組めたものであり、「思考・判断・表現」力を養うものとなっていたと言えるのではなかろうか。

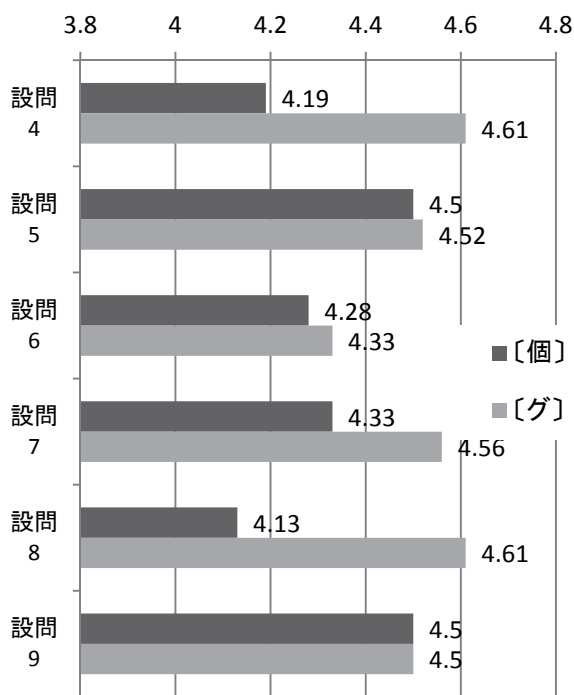


図4 設問4～設問9についての評価の各平均値

では、さらに視点別にみてみることにする。まず、設問4・6・8のうち特に設問4・8での〔グ〕についてはかなり高い数値が示されていることに注目したい。これは、大多数の学生が演奏したり聴いたりしながら思考を働かせ、イメージを演奏に生かすための工夫をしようとしていたことと読み取れる。「思考・判断・表現」については、〔個〕より〔グ〕の方が学生にとって意識しやすかったようである。それは、やはり〔グ〕だからこその他者の存在や、お互いをつなぐ対話によるものであろう。同じ空間にただ座っているだけでは意味がなく、音を介して言語や身体を伴ったコミュニケーションがそこにあったからこそのものであると考える。

次に、設問5・7・9についてである。これらの数値は、〔個〕と〔グ〕においても大きな差はほとんどなく、高い数値を示している。つまり、どちらのレッスンにおいても学生は、おおむね「関心・意欲」をもって取り組むことができたのであろう。これは、学生の真摯に学びに向かおうという姿勢のほか、学生のなかにある問題意識に対してそれを解決すべく機能したレッスン時間であったことも要因ではないかと考えられる。

## V まとめ

本稿では、「保育の表現技術」科目である「幼児音楽Ⅰ」において試みた個人レッスンとグループレッソンを併用するピアノレッスンについて、学生のアンケートを通し

て考察することを目的とした。

アンケートの結果分析より、〔個〕において学生は楽譜の音符や音楽記号などを丁寧に読み、困っている部分についての特に技能面についての細かい助言や指導の手厚さから安心感を得て学修意欲も高く取り組めたことが分かった。他方、〔グ〕において学生は、グループメンバーとの対話を通したかかわりの中で、他者を意識して音楽のどのようなイメージをどのような弾き方で伝えることができるのかなどの思考を働かせ試行錯誤をしながら表現を工夫できていたことがわかった。

つまり、〔個〕と〔グ〕それぞれのレッスン形態には特徴があり、学生にとってはそれぞれに利点があった。そして、〔個〕と〔グ〕を併用することは、双方の特徴を生かすことでそれぞれに足りない部分も補いながら学びを保障できることが明らかとなった。

今後は、このレッスン形態における個の学びの過程を見ていく必要があると考えている。

## 注

- 1) 保育教諭養成課程研究会(2017)「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のカリキュラムの開発に向けた調査研究-幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える-」 pp. 1-4
- 2) 安田寛・長尾智絵(2010)『『保育におけるピアノの流行』と保育養成機関ピアノ教員の関心のあり方との関係について』『奈良教育大学紀要』第59巻第1号, p. 166
- 3) 新海節(2012)「保育者養成校におけるピアノ教育」『藤女子大学紀要』, 第49号, 第Ⅱ部, pp. 149-153
- 4) 中村愛(2014)「保育者養成教育における対話によるグループレッソン」『学校音楽教育研究』第18巻, 日本学校音楽教育実践学会, pp. 242-243
- 5) 本学短期大学部幼児教育学科所属の音楽系授業担当者は、横山真理氏と内田恵美子氏である。
- 6) 楽典の講義は、短期大学部所属の教員(内田氏)が担当し、ピアノレッスンは、筆者と2名のピアノアシスタントが担当している。
- 7) 本科目「幼児音楽Ⅰ」は半期完結の授業となっており、15回目の授業を終えた翌週に、成果発表としての実技発表会が設定されている。

付記：学生にはアンケートの分析について説明をして使用の承諾を得ている。改めて協力を感謝申し上げます。



「保育の表現技術」科目におけるグループプレッスンと個人レッスンを併用したピアノレッスンの試み

資料1 アンケートの記述一覧

質問	個人レッスン			グループプレッスン	
	どんなことを考えながら	よかった点	もっと深く学びたいこと	どんなことを考えながら	よかった点
1	個人でも前回習ったことをしかり直して弾けるように意識して弾きました。	グループとは違い、一対一で教えてくださるので、細かい部分の注意しなればいけないところがよくわかりました。	左手の工夫などを少し教えてもらったので、自分でも引きやすくて工夫できるように学んでみたいと思います。	前回習ったことをしかり直して、さらに強弱などの記号に意識しながら弾きました。	他の一組グループの子達と自分の曲やグループの子たちと意見を交換しながら弾けたこと。
2	間違えないように弾くこと	声が出たこと	どうしたらもっと上手く弾けるのか、取えるのか	間違えないように弾くこと	声が出たこと
3	指づかい間違えないようにと、とまで間違えないように弾いて	一対一で教えてもらえるのでわかりやすいし質問しやすくてよかった。	もっと上手に弾くにはどうしたらいいか学びたい	歌えど大きな声を出すように意識して弾いた	他の人の演奏も利得で、いろいろな学べるのがよかった。人数でやるから楽しいと思った。
4	クレッシェンドとデクレッシェンドを意識して弾いた。またカットを意図して弾いた。間違えないように意識して弾いた。リズムが合っているのか考えながら弾いた。	間違えず一発で弾けることができました。声が出てきた。先生一人と自分だけの時、グループプレッスンよりも落ち着いて弾くことができました。	どうしたらもっと声を出して歌えるか、一人で弾くのが得意になりたかった。クレッシェンドやデクレッシェンドなどの記号を意識して弾くこと	強弱を意識して弾いた。やさしいイメージで弾くのが得意になった。クレッシェンドやデクレッシェンドなどの記号を意識して弾くこと	強弱を付けたことほかに子にわかってもらえたこと。みんなであうからこそ一人で歌えどよくもじぶんのがこができた。ほかこの演奏を聴いて学べたこと
5	その曲のイメージを考えながら右手と左手のリズムバランス	個人なのでやり直したところ、聴きたいところをすぐいえることができる	強弱の付け方を学びたい	その曲のイメージを考えながら、右手と左手のリズムのバランス	他の人の演奏を聞いて自分に取り入れることができる。他の人の意見を取り入れることができる
6	自分が間違えてしまうところも、どうすれば間違えずに弾けるのか、間違えやすいところを意識しながら弾いていた。	一対一だから先生が細かいところまで教えてくれたのよかったです。わからない所まで聞きやすくて先生も優しくしてくれました。	音の強弱やだんだん音が大きくなっていく感じがわかるようになってきた。わからないうちに強弱の付け方を教えてくれた。	歌詞を見たりの曲の雰囲気を感じて弾くことがあつた。わからないうちに強弱の付け方を教えてくれた。	グループの子の意見を聞き取り、アドバイスがあったりして仲間同士で高めあえるのがよかった。
7	曲に合わせてイメージを作りながら弾いた。先生に言われたことを忠実にやっていた。テンポに気を付けて弾いた。	一対一なので細かいところにも目を配られたのでよかった。	難しい曲の譜読み、早弾きの練習、音楽の表現記号	個人レッスンのときに同じイメージをしながら弾いて感じた。	すぐやりやすかった。お互いのピアノをそれぞれ聴いて意見を聞き取り合えたのがよかった。
8	どなく上手になりたい。どうしたらもっと弾けるようになるか	テンポや強弱などの細かい部分も指導してくださったので、いろいろな事に気づくことができました。	もっと上手に弾けるようになること。テンポや強弱など表現の仕方についてももっと学びたい	他のイメージに合わせた弾き方をするためにどうしたらよいか。	人前で歌うことには慣れなかったが、今まで考えたことがなかった曲のイメージについて考え、それを表現することの大切さを知ることができた。
9	うま弾けるかどうか、間違えないで弾けるか	一対一で教えてもらえる	いろいろなおなが記号をもっと音に表して自分のイメージを表現したい	どんなふうで歌ってほしいか、どんな情景が浮かぶか、曲のイメージを考えながら弾いた	実践に近い形のできる
10	ピアノを習っていたので間違ってもそのまま最後まで弾くように考えながら弾いていました。	バイエルを通してしっかりと強弱が付けられるようになったこと	弾きやすいときの声の出方を深く学びたい	子どもたちが歌いやすいように考えながら弾きました。	練習していきうちに強弱も取れるようになった。練習をたくさんしたからよかったと思う。
11	子どもが気持ちよくなって子どもが真似してくれるように大きな声をつけて歌うことに気がついてきました。	音も聴かなくなりうって強弱にも気がついてきた。自分も楽しんで弾くことができた。	楽譜の中で出てくる難しい記号とかはまだぜんぜんわかっていないので、わかるように弾きたいです	子どもが前にいるとき思いがけず大きな声で歌いました。口に指三本入る口のあけ方をしました。	友達が弾いているときに体を揺らしながら口を大きく開けて歌ったこと
12	イメージを持って弾くように考えながら弾いた。指番号を意識して弾いた。	自分のできていないところをしっかりと教えてもらい、直すことができたのよかったです。	今まで以上に自分のできていないところや、ポイントを取り入れていきたい	他のメンバーの弾く様子を見て、自分に取り入れることを意識しながら練習したいです。	自分の足りないところを補いながら練習できたのがよかった。
13	指番号などの記号に気を付けて弾いた。弾きやすい、なるべく声を出すように意識しながら弾いた。	楽譜記号の意味もしっかりと理解し、正しい弾き方を弾けるようになったのよかったです。難しい曲にも少し挑戦できた。	バイエルや難しい曲などにもっと挑戦したいと思った。曲の流れや強弱記号などももっと学びたい	曲のイメージやどのように弾くか、記号などの表現に気がついた	曲のイメージを考えながら弾くことで、全体的に表現力が上がった。いろいろな弾き方があった
14	間違えないようにしっかりと楽譜を見ようという考えを持って弾いた。	楽譜に先生のアドバイスをされたことなどを意識したことができた	どうしたら強弱がはっきりわかるようになるかなど	その曲にあったイメージややさしく演奏したいことを意識しながら弾いていく	一緒にグループプレッスンをしていて人のいいところを聞き取り、自分にも取り入れるたい演奏の仕方を発見することができた
15	できるだけ手元をみないで楽譜を見ようとして	たさんの話を聞くことができた	強弱・表現を意識したピアノ	イメージしやすいような言葉がけを考えて、語りかけようと思った	あまりきちんと理解できなかった強弱や表現の記号を知ることができた
16	一番最初に個人レッスンだったので、清らかに弾くことに集中して、次の音はどの音を弾くのかを考えながら弾いていました。	一対一なのでわかりやすくどこを弾いたら弾きやすいかなど丁寧に教えてもらったのよかったです。わからない所まで相談できました。	せつやく一対一で教えてもらえるので、わからない所や弾きにくいところまで積極的に聞いて学びたい	子の曲はどのようか「字」のかを覚えて弾いていくことと強弱を考え弾いて	先生だけではなくみんなからの意見も聞けた。またイメージもみんなの意見から広がった
17	まず、しっかりと楽譜どおりに弾けるように頑張りました。先生のコードを意識して弾くことができました。	細かい部分まで見てもらってよかったと思います。自分もわからない所を質問することによって先生に教えてもらってよかった	最初のことより弾けるようになったので、もう少し難しい曲にも挑戦したい曲を弾きたい	曲や風景を思い描きながら弾くことができました。強弱や音楽記号に気がつくことができました	他のことと一緒にすることで自分にも取り入れることが多くあつたよかったです。グループではイメージすることをたくさんできたので、楽しかったです
18	間違えないように一対一や強弱をつけることを意識しました。	一対一で詳しく指導していただいたのでとても勉強になりました。	一人一人の時間が少なかったらもっと長くレッスンを受けたらいいと思います	強弱を練習するよりも、曲をイメージして弾きました	ほかの子の引いている姿を見てとても勉強になりました。人前で弾く練習になりました
19	しっかりと完璧に弾けるように弾いた。	いろいろなことを細かく教えてくれるところ	もう少し時間があれば考えようと思えるかなというところ。強弱、感情の付け方	見られてもよいような演奏を弾こうとした	みんなの率直な意見も聞けたこと
20	前回、先生からアドバイスをもたるところを今回間違えないように気を付けて弾いた。	一対一で指導をしてくれるのでわからない所や歌えていないところを聞きやすくてよかった	まだステップ1も難しい曲があるので、たくさん練習して先生にアドバイスを教えてもらいたい。ピアノのことをたくさん学びたいです	先生やグループの子達の言ったりするところやどうやって弾くかを意識しながら弾いた	自分の弾いている曲を2人のグループの子が見てくれるので、「自分ではわからないことも教えてくれる
21	先生と個人なので、わからないところを聞きやすくて、いろいろなことを覚えることができると弾いた。	何回でもダメだったところを練習できて、わからない所も聞きやすくてよかった	楽譜について色々な色んな記号の弾き方やリズムも聞きやすくてよかった	みんなが歌いながら弾いていたり、間違えずとも一緒に弾いて弾いて	みんなで歌って弾いていたので、すごく歌いやすいややすかった
22	曲のイメージを表現できるように弾いた。間違えないように弾く	先生と一対一なので、細かい部分まで指導してもらえた	正確に弾くだけでなく、強弱や弾むように弾くことなども指導してもらった	曲のイメージに合わせて弾き方ができるようになりました	どこがよくどこが悪いのか自分でも意識しながら弾くことができた
23	今まで、練習してきたことを生かそうとして、指番号やテンポを意識して弾いた。自分はずいぶん弾きやすくなったと知っているのよかったです。重点的にリズムや技術的なことなどについて学ばせてもらいました。	一度ミスしたところを二度目に弾くことに意識することができた。練習のときに自分も聞いていたところを先生も練習できた	弾きやすいときに声を出す、手が絡まってしまうので、どうしたら両方うまく弾けるか	弾いている人がどのように感じるのか、自分のように感じて弾いてほしいのかわかるようになった	人の歌を聴いて、伝わり方、伝え方が変わって、子供の曲のように弾いてほしいんだとわかるようになった
24	リズムや技術的なことなどについて学ばせてもらいました。身体や音符などに気を付けて練習から取り組むようになりました。	詳しいところまで丁寧に教えてもらって技術が向上しました	もう少し、レベルの高いものをやって、そのことでの技術面（強弱など）を学びたい	曲のイメージに合った弾き方ができるようになりました	曲の中に出てくる風景や生き物の様子や想像しながらで、楽しさを伝えることができました。自分も練習するようになった
25	弾きながらピアノの集中するとその音がさかかかってしまうので、音の大きさを調節できるように弾いた。	先生と一対一レッスンをしている中で、注意する点を多くしてもらえて、難しいところを質問して教えてもらったことがよかった	もっと難しい曲に挑戦して、記号などに気がつけないならもっと弾けるようにしたいです	弾き歌いでは一つのグループの子に伴奏やピアノの音を響かせるように意識して弾きました	グループ内でどこを意識したらよいか工夫するのよかったです。自分も取り入れることができました
26	歌調子や動物や自然のものを表現しながら弾いた。どんなことを考えているのか、など曲に合わせて弾くことができた	一から教えてもらい、しっかりと音の聴かせるように、両手で弾けるようになって、色々な曲を弾けるようになったので良かったです	歌い弾きやバイエルの方いろいろな曲が弾けるように、曲の流れなど、弾き方など、しっかりと弾き方を覚えていきたいと思いました	いろいろな曲で、それぞれのイメージが、自分が先生になった気持ちで弾けるように、曲のイメージや弾き方など、しっかりと弾き方を覚えていきたいと思いました	いろいろな子の意見を聞きながら、取り入れたらいいなと、自分もレベルの高い手が多いから弾けるようになっていっていいなって思っています
27	強弱やなめらかにすることなどを意識しながら弾いた	自分のペースでアドバイスを受けたところなど意識し、完成形まで進んでいけたこと	細かい表現をどうしたら表現できるか学んでみたい。完成形まで進んでいけたこと	自分自身がどんな感じに弾きたいか工夫しながら弾いた	自分でこの曲はどんな感じに弾きたいか工夫した
28	強く曲の背景を考えて、明るく弾こう、ちょっとゆっくり弾こうと工夫した	細かいところを注意してくれた。（指番号や記号の意味）	色々なタイプの曲を弾いていきたい	グループプレッスンでは人に見られるので少し緊張した	意見の交換ができたこと、自分の違う弾き方や音が響いた
29	間違えないように弾く	一曲一曲集中できる。レッスンも丁寧にもらった気がする	クレッシェンドやデクレッシェンド等の記号をどうしたら上手に使えるようになることができるかしたい	みんなが歌っているから間違えたらいけないという気持ちになる	子どもで自分が弾いているイメージができる
30	バイエル中心にどの動きも速められるように弾いていた。	少し時間が少なかったけど、先生と一対一でできて良かった	難しいイェルも正確に弾いていく	弾き歌い中に他の子に伝わっているか	他の人のピアノや歌声も聞けて、勉強になった
31	難しい、まず、手の動きや人聲のたたき方が悪いから直したい、もっと楽しい曲も弾けるようにしたい。個人レッスンだとじっくり練習できるし、あせる気持ちも減る。	一曲ごとに何をどう弾くかというアドバイスを先生に確認してもらったので細かいところまで丁寧に教えてもらってよかった	手首、指の動き、弾き方を覚えてほしい。音の長さやリズムなどについて先生と話をしたい	他の人が弾きやすくて「おせつなさい、先生の前で弾くのが楽しい」と思っている。他の人の演奏も聞いてみたい	自分のアドバイスをとても参考になった。先生のレベルを比べると自分もまだまだ弾けるようになっていっていいなって思っています。他の人の演奏も聞いてみたい
32	先生と二人で安心感があふれているのが、一緒に弾きたらどうしようというところも、声が出ないというところも心配することが多かったです。でも、アドバイスを聞くことで安心して練習することができました。	一曲ごとに何をどう弾くかというアドバイスを先生に確認してもらったので細かいところまで丁寧に教えてもらってよかった	自分の演奏をどうしたらさらさら弾けるようになるか、曲全体のことについて先生と話したい	みんなが弾きながら見ていることと比べて考えてしまったりも緊張しましたが、それぞれのイメージや弾き方など、曲全体のことについて先生と話したいです	みんなが弾きながら見ていることと比べて考えてしまったりも緊張しましたが、それぞれのイメージや弾き方など、曲全体のことについて先生と話したいです
33	クレッシェンドとデクレッシェンド、p、fの記号を気をつけて弾いた	記号などを細かく教えてくれたり、前回より弾けるようになっていくところを覚えていけたことがよかった	強弱の付け方をもっと学びたい	曲のイメージをもちながらどのように弾くのか考えながら弾いた	どこがよくどこが悪いのかアドバイスももらえた。他の人が弾いてくるところも自分も弾いてみたい
34	間違えないように	弾ける曲が増えた。へ記号が読めるようになった	(なし)	最初は、書かれていない記号だけを覚えて弾いて、正しいように弾こうという気持ちで弾いたが、準備を怠っていたので弾くことができた	ピアノが楽しくなった。他の子への指導や自分も聞いていって気づくことがあつたためになった
35	バイエルのほうでは、一つ一つの音をしっかりと覚えて、なるべく失敗しないように弾くことを意識して弾いた	自分ひとり先生一人という時間いっぱい先生にレッスンしてもらってよかったです。また、他に弾いている人いなかったから緊張感も多少はありました	クレッシェンドやデクレッシェンドの「付ける」ところなども学びたいと思いました	弾き歌い、その場にいる人たちにちゃんと聴かせるように弾く。歌うという気持ちももって行きたい	弾いている人が、自分と先生だけでなくて、他に人も弾いているので、緊張感ももち、みなで歌うことができたのが良かったです。また、曲のイメージを覚えて弾くことができた
36	楽しい気持で弾きながら弾いた	一対一でやることで一つ一つのことをちゃんと覚えていくことができた	もっといろんなピアノを弾いてみたい	楽しい気持ちで弾いて、物忘れずに弾けるようにイメージしながら弾いた	他の人たちのアドバイスをもらえたこと



資料 2 設問 4～設問 9 についての評価一覧

	個人レッスン						グループレッスン					
	設4	設5	設6	設7	設8	設9	設4	設5	設6	設7	設8	設9
1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
2	3	4	3	3	4	4	4	4	3	3	4	4
3	5	4	4	4	3	4	4	4	4	4	5	4
4	4	5	5	4	4	4	5	5	5	5	4	4
5	4	5	4	4	4	5	4	5	4	4	4	5
6	3	5	3	2	3	5	4	5	3	3	3	3
7	5	4	5	5	5	5	5	4	5	3	5	5
8	5	5	4	5	4	5	5	4	5	5	5	5
9	3	5	3	4	3	5	5	5	5	4	5	4
10	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	4	5
11	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
12	4	5	5	5	4	5	5	5	5	5	4	5
13	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	4
14	3	4	5	4	3	2	4	4	5	5	5	2
15	4	2	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4
16	4	5	4	4	3	5	5	5	4	4	4	5
17	3	3	3	4	4	3	5	5	5	5	5	5
18	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
19	2	3	2	3	4	4	2	3	2	3	4	3
20	4	5	4	5	5	5	5	5	4	5	5	5
21	5	5	5	3	4	5	5	5	3	5	5	5
22	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
23	5	4	4	5	5	5	5	4	4	5	5	5
24	4	4	4	4	4	4	5	4	5	5	5	5
25	4	5	5	4	5	5	4	4	4	5	5	5
26	4	5	4	4	4	5	4	4	3	4	5	5
27	5	5	5	4	4	5	5	5	5	4	5	5
28	5	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5
29	4	3	4	4	3	4	5	4	4	5	5	3
30	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
31	4	4	4	5	4	3	4	4	4	5	4	4
32	4	5	5	5	4	4	5	4	5	5	4	5
33	4	5	3	5	4	5	4	5	4	5	4	5
34	3	5	4	5	4	5	5	5	5	5	5	5
35	5	5	5	5	3	4	5	5	5	5	5	4
36	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	151	162	154	156	149	162	166	163	156	164	166	162
	4.2	4.5	4.3	4.3	4.1	4.5	4.6	4.5	4.3	4.6	4.6	4.5

「保育の表現技術」科目におけるグループレッスンと個人レッスンを併用したピアノレッスンの試み

Attempts of piano lessons combining both group and private lessons  
in the subject, "Expression Skills in Nursery Activities"  
: Through the analysis of students' questionnaire survey

OGURI Yuko  
Tokai Gakuin University